

特41

295

東京圖書館

和書門

藝文類

函

四五架

一九號

一冊

018090-000-3

特41-295

真宗 正信偈 (御文章入)

文港堂 / 刊

M17. 2

ABF-1168



心くさるる事ありて
しるすにたしむる
ことありてしるす
ことありてしるす
ことありてしるす
ことありてしるす
ことありてしるす
ことありてしるす
ことありてしるす
ことありてしるす

心くさるる事ありて
しるすにたしむる
ことありてしるす
ことありてしるす
ことありてしるす
ことありてしるす
ことありてしるす
ことありてしるす
ことありてしるす
ことありてしるす

Handwritten text in a cursive script, possibly a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines within a rectangular frame.

正八

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the right page. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines within a rectangular frame.

さいきゅうめい乃こめい
 まにきゅうとなきい
 ちんぐんのまうんまう
 せのまうまうとては
 みむあもだたぶ
 むむあもだたぶ
 けいけいむらぬまのき

ちんぐんのまうまう
 うらまうのまうまう
 けいけいむらぬまのき
 むむあもだたぶ
 むむあもだたぶ

あからしくあらぬのりて家
 うむさをあらぬのりてあ
 びやうやくうくはらぬまよ

あ	あ	あ	あ
む	む <small>ア</small>	む	む
あ	あ	あ	あ
え	え	え	え
た	た	た	た
ふ	ふ	ふ	ふ
ま	ま	ま	ま

あ	あ
む	む
あ	あ
え	え
た	た
ふ	ふ

あからしくあらぬのりて家
 うむさをあらぬのりてあ
 びやうやくうくはらぬまよ
 あからしくあらぬのりて家
 うむさをあらぬのりてあ
 びやうやくうくはらぬまよ

な	な	な	な	な	な
む	む	む	む	む	む
あ	あ	あ	あ	あ	あ
え	え	え	え	え	え
だ	だ	だ	だ	だ	だ
ふ	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ
り	り	り	り	り	り

な	な	な	な	な	な
む	む	む	む	む	む
あ	あ	あ	あ	あ	あ
え	え	え	え	え	え
だ	だ	だ	だ	だ	だ
ふ	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ
り	り	り	り	り	り

びりきりきりきりきりきりきりきり
 なむむあゐたあふ川
 なむむあゐたあふ川
 なむむあゐたあふ川
 なむむあゐたあふ川

おうおうやうやうやうやうやう
 くらうらんきりきりきりきり
 きんたのさくあゐらふあ
 たいやうきりきりきりきり
 今見んはきりきり
 ひやうやうやうやうやう

きりあつがれいぎん
きりあつがれいぎん
きりあつがれいぎん
きりあつがれいぎん

出流のたのび

あつがれいぎん
あつがれいぎん
あつがれいぎん
あつがれいぎん
あつがれいぎん
あつがれいぎん
あつがれいぎん
あつがれいぎん

らもほろくしめりてのちのちの事
その思ひたを味定せざらん
の報の性生たるをたれは
乃人もすむやうな事この世に
今し人間にありこの世に
な夜の世なるまねはる空の人間

えよりの夜の極を極の極
ものなるまねはる空の人間
のりてのちのちの事
くちの世なるまねはる空の人間
の報の性生たるをたれは
今し人間にありこの世に
な夜の世なるまねはる空の人間

をへくるともなりつたなふのな別も多く
深ふたふ縁をなかりと響きたくは縁
ある縁生え入るやうふおりの入りもねん
おろきふおぼつらなきは身おりの他
かの代心とせらるるとりか別のもふハ
あつてはもなを縁後佛のよめまの

ふせよく知るまのつて代心はまじき
とわいのありなましく代心の体と云
の縁お旧く縁其縁縁作心縁縁と
りり縁縁縁のいそくある無とらふの縁
命ましくあるまな縁縁向の縁あり
縁縁縁とのみハまかりちたの縁とい

今南基とりのふ二字の心ハ徳の難
りを捨て慈心あく一心向う阿羅
漢をたのむたてまつるを多うさ
て阿羅漢とりのふ二字の心ハ一
心不離徳を海軍するを多うさ
もなぐたまげしまゝなられが別

この後で一念念起入正定之要も
釋しその人の姓名念佛ハ其業も
往生とていふもいハ一法かんたんなの
念仏とていふもいふもあつて

○ごんぎやうのかりまらふとて

白骨之御文章一通

夫人間の厚生なる相とつらく見え
まらふを不よそとはるまきりののほの世
乃婚仲終まがらうしのとくなる一
ありきれつとまづか業の人ぬらけ
よりとらふとまきらぐだ一重すまじやを
し今ぬらうとたれう百年の旅

何處に餅の田乃字の心ありされ
が南無何縁は餅の餅をあくのと
くつらえわけくもを何心をせよ
よふみなりをれ別地方の行心を
よく心はする念餅の心者よ
申なりあまうしとく

曰一通 蓮如上人御作

聖人一途の御勅任のおりむきん後念
なまつて存とせしきん生念の徳くの
難形をかたげますと一公も難念を
命をぬかす可思候の教カとすも公
のぬかすより往生ははるせしりてま

練せたるのりなるを紙紙やと云ふ人あり
けりもあつちなるすもあつちなる
まをたつち人にいふもあつちなる
あつちなるあつちなるあつちなる
い知教のつとあつちなるあつちなる
あつちなるあつちなるあつちなる

すあからいとのあまのうらみあはれは
心の息ながくいへばにふたはしく
音とて梅子のよきあひうら
ぬらむらひら親着庵のしからし
た想いあどまきまふらひるあはれ
おひまの香いあはれあはれ

あはれとて梅子のよきあひうら
ぬらむらひら親着庵のしからし
た想いあどまきまふらひるあはれ
おひまの香いあはれあはれ
あはれとて梅子のよきあひうら
ぬらむらひら親着庵のしからし
た想いあどまきまふらひるあはれ
おひまの香いあはれあはれ

たすみのちうもあへしるに會ふ阿修羅
佛とていなるまのあはれし修羅
たすむまのこころん人あはれ
あはれあはれしとあひあはれ
あはれあはれのあはれあはれ
あはれあはれのあはれあはれの
あはれあはれのあはれあはれの

あはれあはれのあはれあはれの
あはれあはれのあはれあはれの
あはれあはれのあはれあはれの
あはれあはれのあはれあはれの
あはれあはれのあはれあはれの
あはれあはれのあはれあはれの
あはれあはれのあはれあはれの
あはれあはれのあはれあはれの

日 一 道

柳南園梅屋集陳那生女の在肉
方城といふ在野のほほむらうの
物集のありてはるやまへなる明意
著るもの秋令旬れころよりあつてあ
たつてこのまゝをいふとあつて
まゝにあつてこのまゝの指合を

建立せしむる南来ハたやとせむ
三年の算をおとるころといふまじ
すのちからは昔の南極のころなる
因縁をりとおおくとおむりぬまれ
つてあつた在野は居候せしむる指
えのあつたころふ一生海をこころあ

正しただしの業わざを業わざに業わざを業わざとすのこころ
 なるなる月つき内うちのこころこころのこころこころのこころこころ
 あされあされを上かみ書かき提たてのこころこころのこころこころ
りのこころこころのこころこころのこころこころのこころこころ
まのこころこころのこころこころのこころこころのこころこころ
 もあされあされとありありのこころこころのこころこころのこころこころ

とはとはのこころこころのこころこころのこころこころのこころこころ
 人ひとなんどもなんども編あ執じのこころこころのこころこころのこころこころ
 かかのこころこころのこころこころのこころこころのこころこころのこころこころ
 すすのこころこころのこころこころのこころこころのこころこころのこころこころ
 ああのこころこころのこころこころのこころこころのこころこころのこころこころ
 月つきのこころこころのこころこころのこころこころのこころこころのこころこころ

を平入全割聖園の行心を改めさせし
めんともまきしふ強強如東の春氣を
あひまひの明一其を聖人の御存を
たのぬべきもののうちをれしつて
ふふ満年の八十四歳まで存命せ
しむる急石良候なりまきとふ内儀

は我々の御心におもひを
のすまひの御心におもひを
あつた御心におもひを
つた御心におもひを
御心におもひを

なう。あをれく。なをのうらふ。
こなく。後心又は定おれぐ。と能く
かめひをんざり。海とよ。宿を合まうせ
とらひかなから。速核の。なをぐく
もやむとあ。ほつひ。あのを。あ
三年の。住任さ。あ。と。早。あ。と。も

かりぐ。あひかま。く。あ
一七日。報。恩。縁。の。う。ち。ふ。あ。ひ。て。
後心。定。ま。り。て。我。人。一。月。お。世。を
救。世。の。早。ま。む。と。げ。く。ま。ま。む。あ。あ
を。の。あ。り。あ。あ。う。く。

明徳七年十月廿一日より

く候下りて「シマム」をいふにきく「報」
候の懇しんにおすかりて「たま」をします「ま」
とありぬらうの「念」のなましとありぬ
うのしずめ來の時に「ま」らひあつらら
りのからうとありぬ「ま」をまとんにて
念にましらし「念」をまとんにて「念」

のまの作力ふよりて「清」をまにまらす
から「し」をまにまらす「報」のまらひ
からのまらあ「ん」だり「報」のま
とありぬと「報」をまにまらす「ま」
とありぬのまにまらす「ま」のま
者ともし「ま」をまにまらす「ま」

文明三年 十二月十八日

太子七高僧之御恩日美本願寺御代之御恩

聖德太子 二月廿二日 曇鸞和尚 五月廿六日

龍樹菩薩 十月十日 道綽禪師 四月廿七日

天親菩薩 三月三日 善導大師 三月廿七日

源空上人 正月廿五日 源信和尚 六月十日

菩提觀德夫
大見真大師
明長成青真昇
明治三年三月
六百三十九

寬如上人
觀德堂正月九日
同六百三十九

縛如上人
明德四年四月廿
同四百八十九

存如上人
長祿二年六月廿
同四百七十九

實如上人
大永西二月二日
同三百五十九

顯如上人
文祿四年七月廿
同三百九十九

良如上人
寬文二年九月廿
同三百九十九

如信上人
正安三年正月四日
同五百三十九

善如上人
康曆元年二月廿
同五百三十九

巧如上人
永享三年正月廿
同四百三十九

蓮如上人
明應元年三月廿
同三百九十九

證如上人
天保三年八月廿
同三百九十九

准如上人
寬延元年十月廿
同二百三十九

寂如上人
享保十一年七月
同百三十九

住如上人	元久四未八月九日	同百五二年九月
法如上人	寶成元年十月廿日	同九十年九月
本如上人	文政九年十二月廿日	同五十年九月
東教如上人	慶長九年正月廿日	同三百五十九年九月
琢如上人	寬文十一年四月廿日	同三百八十九年九月
一如上人	元禄十三年正月廿日	同百五十二年九月
從如上人	宝曆十一年七月廿日	同百七十九年九月
建如上人	慶應元年十月廿日	同十四年九月
湛如上人	寬保元年六月八日	同百五二年九月
文如上人	寬政十一年六月廿日	同八十四年九月
廣如上人	壽光元年八月廿日	同百五十二年九月
宜如上人	寬永七年十月廿日	同三百五十九年九月
常如上人	享保七年七月八日	同百五十二年九月
真如上人	寬保元年八月八日	同百五十二年九月
乘如上人	寬政十一年六月廿日	同八十四年九月

定價 十五錢

明治十六年十二月廿四日御届
同十七年二月 出版

出版人

福岡縣平民

内田卯之吉

福岡區博多中島町

三十三番地

製本所

